

安全方針

「安全がすべてに優先する。」

1.

そもそもこの世の中に安全は存在しない。

あるのは不安全と危険のみであると認識することが安全活動の出発点である。

何処にまたどういった行動に不安全と危険が存在しているのかを知り、また不安全と危険を予測・予知しこれらの不安全や危険が現実のものとなることを回避、未然防止することが安全管理活動である。

したがって安全は、そこにあるものではなく一人ひとりの努力で築き上げるものである。

2.

事故が起こるということは、事故の惹起者が安全を確保するに必要な知識と技能・技術が乏しいことと管理監督者の安全管理の教育指導が不十分な故に発生する。

したがって安全活動は、まず各人が安全に対する知識を広めまた深め、同時に安全作業の技能・技術を習得し向上することと徹底した教育の両輪で達成するものである。

3.

過去に発生した事故事例は生きた教材である。

これを風化させることなく、教訓として類似事故を防止する必要がある。

自らの事故により事故の悲惨さと損害から教訓を得るより、他者の事故から多くを学び取るの方が賢明である。

2度と同じ事故を発生させない為には、事故発生の事態と原因を徹底的に多面的に究明する必要がある。

これが甘いと同じことが繰り返し起こる。

以上